

1 研究計画

(1) 研究主題

**コミュニケーションの深まりを目指した授業づくり
～個々のニーズにあった教材・教具の工夫、改善を通して～**

(2) 主題設定の理由

障害が重い児童生徒であっても、何かを感じ、それぞれ思いをもっている。児童生徒は、内面にある自分の思いを身近な教師と共有し、自分で何かをすることで、周りが増えること、そして「伝えよう」「伝わった」と感じられる経験を積み重ねることにより、その心が動き、「伝えたい」という思いが生まれ、相手とやりとりする力が育っていく。しかし、障害があるが故に、周囲からの働きかけを受け取ることや、そこで生じた思いを伝えることが難しいことも多い。日々の生活の中で、私たち教師は、常に児童生徒からの発信を敏感に受け止め、思いに寄り添い、返していくことを心がけているが、読み取りが難しくその思いとは異なる言葉掛けや支援をしている場合がある。

昨年度、分教室では、児童生徒にとって分かりやすい状況づくりのための4つの観点（言葉掛け、姿勢づくり、教材・教具の工夫、授業展開）を取り入れた集団の授業づくりに取り組んだ。その結果、小集団の中でも自己を表現しながら共に学ぶ楽しさを感じ合う児童生徒の姿が見られるようになった。

今年度はこれまでの積み重ねを大切にしながら、芽生えてきた育ちをさらに引き出すことができるように、よりコミュニケーションを深めることが必要であると考えた。そこで、4つの観点の中の「教材・教具」に焦点をあてた実践的な取組をしていきたいと考えた。教材・教具は児童生徒と教師が関わりをもつとき、お互いをつなぐ媒体の一つとなる。個の思いを大切にしたい、そして一人一人の発信を生かすための教材・教具をどのように活用していけばいいのか、工夫・改善していくことは、児童生徒の表出や変化をきめ細かく見ていくことでもある。それに応じた読み取りと関わりは、児童生徒と身近な教師との心地よい関わりへと広がり、様々な思いを引き出すことができると考える。そして、周囲との関わりを少しずつ楽しみながら豊かな生活を送ることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

研究に当たっては、ケース検討会などを通して、実態や目標をしっかりと確認し、なぜその授業が必要なのか、その教材・教具なのか十分に吟味して取り組んでいきたい。

(3) 研究仮説

児童生徒一人一人のニーズに合った教材・教具の工夫・改善を通して、コミュニケーションの深まりを目指した授業づくりをすることで、児童生徒の思いを引き出し、人との関わりを楽しみながら豊かな生活を送ることへつなげることができるのではないかと考える。

(4) 研究方法

①授業研究会

- ・授業前に「授業デザインチェックシート」を、授業後には「授業実践チェックシート」を活用する。
- ・全職員による個別授業提示及び研究会を通して、コミュニケーションの深まりを目指した授業であったか協議し、授業改善に役立てる。
- ・外部専門家や他校職員による外部評価を得て、より専門的、多角的に検討する。

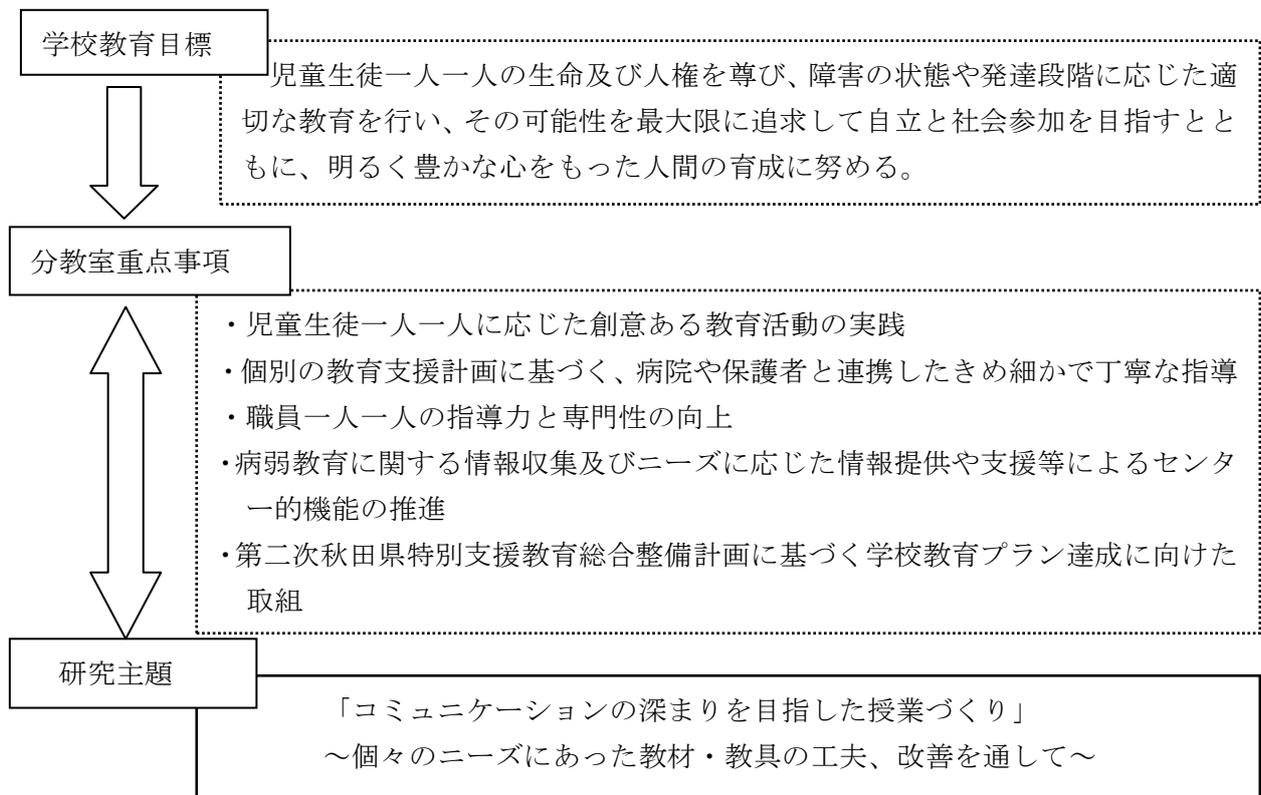
②ケース検討会

- ・児童生徒一人一人の個別の指導計画を活用しながら目標や実態に即した教材・教具について検証し、共通理解を図る。
- ・ミニ授業研究会後(一人一授業提示)、評価記録用紙を基に教材・教具などについて話し合い、次時に向けて工夫、改善を図る。*評価記録用紙：<資料3>参照
- ・児童生徒の変容及び教材・教具等について確認する。

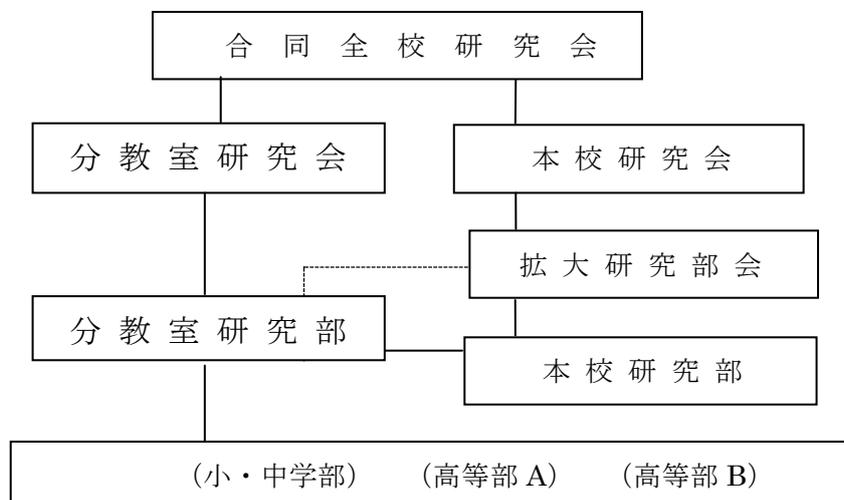
③自立活動学習会及び教材・教具研修

- ・自立活動や教材・教具の開発に向けた研修などを通して、専門性の向上や授業づくりに役立てる。

(5)全体構想図



(6)研究組織



(7)年間計画

()内の数字は日にちを表している。

月	研究会	授業研究会等	学習会・研修会	その他
4	研究会① (22) ○今年度の研究計画について	ケース検討会Ⅰ (4/30~5/16) 実態・目標の共通理解	学習会① (16) ・摂食指導について 学習会② (18) ・自立活動について 学習会③ (21) ・教材・教具について	
5	合同全校研究会① (9) ○本校・分教室相互の研究概要確認			訪問教育担当教員講習会 (21)
6		ミニ授業研① (2) ミニ授業研② (16) ミニ授業研③ (30) ケース検討会Ⅱ (6~12月) 授業の実際	学習会④ (30) ・自立活動について	
7		ミニ授業研④ (8) <u>公開授業研究会 1</u> (17) 山形大学 大江准教授による 指導助言、講演会	教材・教具研修会 (31) 講師：県立大職員	本校全校授業研究会① (7)
8			学習会⑤ (19) (出張報告会)	
9		ミニ授業研⑤ (8) ミニ授業研⑥ (22)	・学習会⑥ (25) ・東北地区病弱虚弱教育 研究連盟研究協議会 発表原稿読み合わせ	本校全校授業研究会② (11)
10		ミニ授業研⑦ (6)	・東北地区病弱虚弱教育 研究連盟研究協議会 (9、10)	本校全校授業研究会③ (8)
11		ミニ授業研⑧ (10) <u>授業研究会 2</u> (5) 指導主事による 指導助言	・全国病弱虚弱教育研究 連盟研究協議会 (12~14)	本校公開研究会 事前研究会 (25)
12	研究会② (18) ○研究の評価及び 成果・課題の整理	ミニ授業研⑨ (1) ミニ授業研⑩ (8)	・東北病連、全病連 報告会 (22) ・教材・教具研修会 (31) 講師：県立大職員	本校公開研究会 (11)
1				
2	研究会③ (2) ○研究のまとめ	ケース検討会Ⅱ (17~27) 児童生徒の変容、来 年度のねらいについ て確認		
3	研究会④ (2) ○研究の振り返り、 次年度計画について 合同全校研究会② ※本校・分教室相互 の研究のまとめ			

2 研究の実際

(1) 授業研究会（外部講師を招いた公開形式で2回実施）

児童生徒と職員が1対1で行う個別学習を参観し、その後、授業研究会を行った。外部からの参加もあったため、研究への意識が高まり、協議では意見交換が盛んに行われた。外部講師を招いた公開形式での授業研究会の概要は次のとおりである。

協議題「児童生徒の表出を促す教材・教具の活用について」

〈表1〉第1回公開授業研究会の様子①

<p>A (高等部1年)</p>	<p>題材名「さわってみようよ」 本時のねらい ①顔を上げたり、口を鳴らしたりして心地よさを表す。 ②ぬるま湯に自分から何回か触る。</p>						
<p>教材・教具</p>	<p>ぬるま湯、バケツ、透明容器、桶、ボウル、ザル、ペットボトル、電動ポンプ</p>						
<p>授業の様子</p>	<p>授業の始めから落ち着かない様子で、うなり声も聞かれたが、始まりの歌には聞き入っていた。ぬるま湯が入った洗面器に触る活動では顔を上げ、楽しそうな表情が見られた。</p>						
<table style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td style="width:33%;">歌や楽器の音を聴く</td> <td style="width:33%;">自分から洗面器に触る</td> <td style="width:33%;">洗面器をこすって楽しむ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		歌や楽器の音を聴く	自分から洗面器に触る	洗面器をこすって楽しむ			
歌や楽器の音を聴く	自分から洗面器に触る	洗面器をこすって楽しむ					
							
<p>改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの活動の終わり方、次の活動へのつなぎ方等、展開を工夫する。 ・体調や機嫌によっては、展開や教材を変更する。 ・気持ちが不安定になった時の対応、クールダウンの仕方を工夫する。 						
<p>授業改善後の生徒の変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を1～2つに絞り、学習内容を分かりやすくした。また、一つの活動の終わりで間をとり、区切りを明確にした。落ち着いて学習に向かえることもあったが、活動の切り替えと継続の見極めが難しい部分があった。 ・体調面、精神面で落ち着いていたら挑戦してほしい学習に取り組み、不安定な時は、リラックスできる姿勢をとり、静かに好きな学習を行うよう配慮した。生徒の体調や気持ちに応じて支援の仕方を変えることで、興奮してもまた持ち直すようになってきた。 ・気持ちが不安定になったら水を飲んだり、背もたれを倒したりして休憩を取り、活動に向かえるようにした。興奮が続いた場合は学習場所から離れると気持ちが落ち着くことが多く、再び学習に気持ちが向くこともあった。 						
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの表出に対する受け止め方や返し方が適切か、主観的に判断することが多いのでさらに生徒の気持ちに添った支援ができるよう今後も自己評価を継続し、定期的に他者評価も取り入れる。 ・学習しやすい姿勢への配慮、教材の提示の仕方や配置、活動量や活動の終わり方、つなぎ方等の展開の仕方がねらいに対して効果的であるか今後も見直し、生徒自身のより豊かな表現につなげる。 						

〈表2〉第1回公開授業研究会の様子②

B (中学部2年)	題材名「レミちゃんタイム」 本時のねらい ・話と話の合間に口や舌を動かす。		
教材・教具	キーボード、セラピーマット、キューボモビリア、クッション		
授業の様子	教師の緊張が生徒に伝わったのか、身体をゆるめリラックスした状態にもっていきまで時間がかかった。車椅子に乗ったことで、徐々に緊張がゆるみ、教師の素話に集中するようになった。教師の声が止まって少しすると口や舌を動かす様子が繰り返し見られた。授業の終わりころには生徒の表情が穏やかになっていた		
	身体をゆるめる 	抱っこでスキンシップ 	素話を聴く 
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・PTと身体の動かし方を確認したりクッションを使用したり等工夫し、生徒や教師自身の姿勢の安定を図る。 ・言葉を掛けてから身体に触れるまでの時間をもう少しゆっくりとる。 ・生徒に伝わりやすい話のスピード、言葉のリズムを考える。 ・話の内容が生徒にとって適切かどうか、検討する。 		
授業改善後の生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・身体のゆるめについてPTと確認し、表情を見ながら時間を掛けてじっくりと行うようにした。身体がゆるむと生徒の表情も穏やかになり、教師の働き掛けを受けやすい状態が増えてきた。 ・声掛けの後、間を多くとってから身体へゆっくりと働きかけることで過度な緊張が減り、表情から安心して働き掛けを受け入れていることが分かるようになった。 ・生徒の身体の状況や表情を見ながら、話すスピードを調節した。生徒が面白いと思う言葉や擬音の響きなどを繰り返しながら生徒の表出に応じるようにしてきたら、互いの呼吸が合ってきて、やりとりが形として定着しつつある。 ・素話の内容については、生徒が理解しやすい表現を選びながらも、ジャンルにとらわれない様々なことを題材としてきた。声を聴くことの楽しさや安心感を味わうことをメインとして続けてきたことで、生徒の口や手足の動きが増えてきたように感じる。教師自身が生徒のわずかな動きを表出として捉え意味付けできるようになってきた表れだと思う。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の表出を見逃さずそれに応じてやりとりしていくことで、コミュニケーションの深まりを目指していきたい。気持ちや感情の共有とともに、第三者にも分かってもらえるような特定の合図を生み出していけないか考えていきたい。 ・素話を題材に教師と生徒とのやりとりの確立を試みたこの単元を発展させ、音楽や運動遊びの中においても様々な表出を促し、やりとりする場面を作り出していきたい。 		

【指導助言より】

○山形大学 地域教育文化学部 児童教育コース 准教授 大江 啓賢^{ひろかた}氏

- ・究極の教材は教師である。子どもに触るタイミング、声の抑揚すべてが教材となる。また、何もせず、子ども自身のポジションができるまでゆっくり待つことも支援である。
- ・「快」と「不快」は究極の二択の感情である。好きな活動を繰り返し行うことで、快の体験を積み重ねることも大切だが、時には子どもの苦手な活動も取り入れ、不快の表出を引き出すことも大切である。
- ・応え方が上手ではない子どもの思いを、教師がどのように汲み取るのが大切。また、子どもが「明日もまた学校に行きたい。先生に会いたい。」と思うような関係を作るために「君を見ていますよ」と伝えていくことが重要である。

〈表3〉 第2回公開授業研究会の様子①

C (高等部1年)	<p>題材名「きいてみよう、ならしてみよう」</p> <p>本時のねらい</p> <p>①教材からの音や振動を感じ、表情や口、手の動きで気持ちを表す。</p> <p>②手を上げて、楽器に触れたり、鳴らしたりする。</p>
教材・教具	ミュージックビーンズ、iPod、空き容器、ペットボトル、アームグリップ、スイッチ教材、楽器、CDラジカセ
授業の様子	<p>ミュージックビーンズ（振動するスピーカー）を体に当てながら音楽を聴くと、空き箱などの素材による音や振動の変化を感じ取り、まぶたや口、手を動かした。</p> <p>楽器の演奏では、生徒の姿勢からスイッチ教材は見えにくかったが、鈴のついたゴムを手につっかけるとリモコンのスイッチを引っ張った。また、手の届く位置にウインドチャイムや鈴などの楽器を設置すると、自分から手を上げて触れようとした。</p>
<p>ミュージックビーンズに触る</p> <p>楽器に触る</p> <p>手を上げて楽器を鳴らす</p>	
	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 音楽、振動、言葉掛け、ボディタッチ等、複数の刺激が重ならないようする。 どんな刺激にどんな反応があるのか刺激の整理をする。 使う教材・教具を精選してじっくり活用したり、ゆっくり展開したりする。
授業改善後の生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> 始めにミュージックビーンズだけで音楽を聴くと、音のする方へ顔を向け、目を大きく見開いてじっと聴き入っている様子が見られた。次にミュージックビーンズを体に当て振動を伴った音楽を聴くと口や手を動かし、リラックスした表情になった。 曲数を減らし、教師と一緒にじっくりと音楽を聴きながら楽器を鳴らしたことで、音の響きやリズムを楽しむことができ、意識して手を上げて自分から楽器に触れようとするが増えてきた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 刺激に対する反応を分析し、複数で協議する機会を設定する。 生徒の表出をより多く引き出せるような学習内容を工夫する。

〈表4〉 第2回公開授業研究会の様子②

D (高等部3年)	<p>題材名「いろいろなものに触ろう～オモチャに親しもう～」</p> <p>本時のねらい</p> <p>①提示するオモチャに興味をもち注目する。</p> <p>②オモチャに触れて楽しみ、感じた気持ちを表現する。</p>
教材・教具	はてなBOX、いろいろなオモチャ、キャスターボード、マット
授業の様子	<p>「はてなBOX」を開けると出てくるオモチャに注目することができていた。顔に寄ってくる犬のオモチャに触れたり、猿のオモチャがたたく太鼓の音を聴いたり、マッサージ機の振動を感じたりして笑顔になり、楽しむことができた。</p> <p>普段は周囲の人の動きが気になる生徒であるが、周りに気を取られることなく授業に集中できていた。</p>



ひもを引いて扉を開ける → オモチャが出てくる → オモチャで遊ぶ

改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ひもを引いて「はてなBOX」の扉を開けた時に達成感を感じられるように効果音が出る仕組みや、オモチャにより注目できるようライトアップ等の工夫があるともっとよい。 ・オモチャはもっと生活年齢に合ったものもあればよい。卒業後の生活につながりをもてるようなものを準備できればよい。
授業改善後の生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・「はてなBOX」を開けた時にオルゴール音を流したり、BOX内にLEDライトを設置することで、オモチャへの注目度を高めることができた。 ・オモチャ以外にも、個別学習の導入時に教材（楽器や絵本・文具等）を「はてなBOX」から登場させることで、学習への興味を高めることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味関心に合い、かつ生活年齢に合った教材の選択や工夫をする。 ・卒業後の生活に生かすことができるような学習内容の工夫をする。

【指導助言より】

○特別支援教育課 指導主事 阿部 純一先生

(研究について)

研究は今年だけのものではなく、積み重ねられていくものである。今年やったことを次年度につなげていくことが大切。そのためには、教材・教具の工夫についてのポイントや日々の授業における好事例の記録を蓄積していくとともに、授業後の評価と改善点を確実に生かしていくことが大事である。

(授業について)

子どもたちが安心して同じ活動を繰り返し行ったり、教師と一緒に活動で反応を共有したりする中で生まれる生徒からの表出を意味付けることが、子どもたちの伝えよう、伝わったという経験の積み重ねになり、目指す児童生徒像につながる。

(2)ケース検討会

今年度、小・中学部で1グループ、高等部を2グループに分け、それぞれのグループで行った。

- ・4月実施のケース検討会Ⅰでは、昨年度末のケース検討会を受けて、今年度の児童生徒の目標立案及び教材・教具についての意見交換をし、共通理解を図った。
- ・6月～12月のケース検討会Ⅱでは、すべての児童生徒を対象に、個別学習の授業提示を行うミニ授業研究会後、評価記録用紙を基に教材・教具等について話し合い、今後に向けての工夫・改善を図った。
- ・2月のケース検討会Ⅲは、1年間の児童生徒の育ちや変容を確認し、個別の指導計画の評価や次年度の目標等に関して意見交換をした。

(3) ケース検討会Ⅱのまとめ

提示授業後のケース検討会の協議内容や評価記録用紙の記述を項目を決めて整理した。

	コミュニケーションの深まり (ねらい)	手立て	教材・教具	児童生徒の様子	今後へ向けて (改善点)
1 6/2	<ul style="list-style-type: none"> うさぎの動きや洋服の変化に注目し、やってみたい気持ちを動作や発声で表す。 好きなシールを選び、教師に手渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> うさぎの動きや洋服の変化に注目できるように、ペープサートを用いながら話を進める。 シールを見やすい位置に提示し、視線が合ったら、気持ちを代弁する。 	絵本 ペープサート シール	<ul style="list-style-type: none"> やってみたい気持ちを動作や発声で表したり、好きなシールを選び、教師に手渡したりすることができていた。 特に手はよく動いていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の言うことをだいたい理解でき、気持ちを出すこともできるので、生徒にとってのコミュニケーションのねらいを明確にもつ。一つ一つの活動と、活動のつながりに配慮する。欲しい物を選んで相手に伝えるための選択場面を設定する。
2 6/16	<ul style="list-style-type: none"> プラズマカーに乗りたい気持ちを、3回発声で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> プラズマカーに乗るために繰り返し発声しようという気持ちを引き出すことができるよう、少し距離をとったり、教師が楽しく乗っている様子を見せたりする。 	プラズマカー セラピーマット クッション	<ul style="list-style-type: none"> 活動に見通しと期待感をもち、普段の発声よりも大きな声で3回発声することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 否定的な言葉ではなく、「ゆるゆるしようね」など、肯定的な言葉掛けをする。プラズマカーで移動する中で、選択の場面(進む方向、遊びたい玩具等)を設定する。
3 6/30	<ul style="list-style-type: none"> 教材を使って出す音や教材からの振動を感じ、表情で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「スイッチを押すよ」などの言葉掛けをし、最初は教師と一緒にスイッチ操作をする。 	ジェリービーンスイッチ、ボウル、なべ、打楽器、タワッチ(マッサージ付きたわし)	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもち、時間いっぱい活動を楽しんでいた。満足そうな表情で活動していた。 	<ul style="list-style-type: none"> スイッチの接触、もっと強度がある物を取り入れる。手がよく動くので、スイッチなしで楽器を鳴らすことがあってもよい。いろいろな物を試し、好き嫌いなく使えるようにしていく。教師とのやりとりを深めながら経験を広げる。
4 7/17	*「研究の実際A〈表1〉」参照				
5 7/17	*「研究の実際B〈表2〉」参照				
6 9/1	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもって遊具や楽器に触れ、感じた気持ちを表情や発声、身体の動きで表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から触れてみたいと思えるように、生徒が好きな活動を取り入れたり、教師が遊具や楽器を使う様子を見せたりする。 	戸棚ふうの箱、遊具、楽器	<ul style="list-style-type: none"> 楽器を手にし、振ったり何かにつけたりして音を出すと笑顔になっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 物を介した人とのやりとりを今後も継続していく。人と遊ぶことが楽しいということを繰り返し実践し「これで遊びたい」「もっと〇〇したい」という要求が出てくるようにする。
7 9/8	<ul style="list-style-type: none"> 教師の「はい」や「ヤッター」の演示を見て、口や左手を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師がゆっくりと口形を作りながら発声して見せたり、元気にヤッターのポーズをしたりして、生徒の動作を促す。 	ハンドゴルフ式、ボール、ビッグマック、得点カード	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の時や呼名、「ヤッター」や得点発表等、口や左手がよく動いていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 手を離してから穴に入るまでのボールのスピードがもう少し遅いと見やすい。ボールがカップに入った時の音声、二つとも同じ声だったので、違う声にして聴覚を刺激してみる。

	コミュニケーションの深まり (ねらい)	手立て	教材・教具	児童生徒の様子	今後へ向けて (改善点)
8 9/22	・水袋の揺れやアロマの香りを感じて、口を動かす。	・揺れや香りを十分に感じられるように、揺れに強弱を付けたり、ディフューザーを児童の顔の近くに置いたりする。	大型そり、水袋、電気毛布、アロマディフューザー、精油、空模様の布	・口がたくさん動いて気持ちを伝えることができていた。また、口だけでなく目の動きも見られた。	・実際に湯や水を流したり、流れる音を聞かせたりする。様々な温泉の香りを使ってみる。露天風呂をイメージして風を感じてみる。視覚的な働き掛けの工夫をする。
9 10/6	・手を伸ばしたり、手を重ねたりして「もっと紙をちょうだい」の気持ちをサインで表す。	・紙をちぎり終え、まだやりたそうにしている時は両手を重ねて「ちょうだい」のサインを見せる。サインの真似をしたら賞賛する。	紙類、梱包材、アルミホイル、はさみ、のり、両面テープ、画板、空き箱	・いつもよりはゆっくりペースだったが、活動には集中していた。手を重ねるサインはなかったが、欲しい物に手を伸ばしていた。	・すぐに欲しい物を渡さないで待つなど、サインを引き出す設定を考える。今もっている力を生かしながら、卒業後の生活に生かすことができるような新しい力を育てていくことが課題である。
1 0 11/5	*「研究の実際C (表3)」参照				
1 1 11/5	*「研究の実際D (表4)」参照				
1 2 11/10	・話しかけられたことに、視線や体の動き等で意思表示をする。	・教師の言葉掛けに意識を向けられるよう、生徒の正面や横などから働きかけたり、体をタッピングしたりする。また、視線が合うなどの意思表示ができた時は言葉で返す。	タブレット型パソコン (楽器アプリ)	・頭を左右に振るなど不随意運動が見られたが、授業を進める教師の問い掛けに、顔を上げて教師の方に視線を向けた時もあった。眠そうな様子も見られた。	・自分の指を動かすと音が出ることを実感できるよう、触れると音が出やすい楽器を十分に試してみる。音が大きく聞こえるよう、タブレットにスピーカーをつなげる。眠そうなきときは車いすから下りて姿勢を変えてみる。自発的な手の動きを強化する。
1 3 12/1	・教材に触れることや見ることを通して、感じた気持ちを表情や声で表す。	・児童の気持ちの表出を引き出せるように、話の間を大切にしたり、表情を読み取って応じたり気持ちを代弁したりする。	フェルト雪、だるま、書見台、冷たい雪だるま (小麦粉粘土)、ドーム、電源リレー、ビッグマック	・教材に注目し、粘土に触ると声が出たり、粘土の形が変わると笑顔になったりしていた。繰り返し自ら手を伸ばして粘土やビッグマックに触っていた。	・一つ一つでもっとじっくり遊び、教師も一緒になって活動内容を広げたり膨らましたりしていく。教材に触っても手が汚れないようにする。ねらいに沿ったドームの大きさを工夫する。スイッチを押したときの効果音の有無や選曲を検討する。
1 4 12/8	・活動の中で感じた気持ちを、表情や動作で表す。	・関わりの中でリラックスできている時の表出を大切に、できたことをフィードバックできるように共感的な言葉掛けをする。	入浴剤、洗面器、クッション、CDラジカセ、セラピーマット	・様々な表情の変化があり、発声もあった。右手でお湯を触ると、気持ちよさそうな表情が見られた。	・授業の展開を工夫し活動時間を確保できるようにする。生徒への言葉掛けではなるべく具体的な表現を用いる。一人で活動できる時間を設ける。お湯を素材とした活動のバリエーションを増やす。

(4) 自立活動学習会や教材・教具研修会

自立活動や、教材・教具の開発に向けた研修などを通して、専門性の向上や授業づくりに役立てることを目的として実施した。

①自立活動学習会について

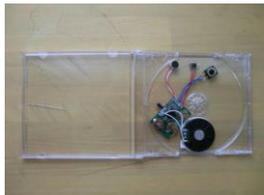
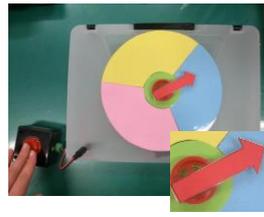
摂食指導や教材・教具について実技を含めた研修を行ったり、出張報告会を開いて情報共有をしたりした。また、教育専門監の宮野俊実教諭を講師に迎え、道川分教室における自立活動について研修を行い、重度重複障害児のコミュニケーションについて学んだ。

～自立活動学習会の様子～



②教材・教具研修会について

昨年度に引き続き秋田県立大学の協力のもと、システム科学技術学部の高山正和准教授を講師として、7月と12月に研修会を行った。実施にあたっては、児童生徒の実態と教育活動の背景等を考慮して、必要とする教材・教具について職員にアンケート調査を実施し、以下のスイッチ教材を製作する研修会を依頼した。

	第1回研修会（7月）		第2回研修会（12月）	
アンケートから	交流のゲームコーナーで使えるじゃんけんの教材・教具がほしい。	朝の会の係活動や発表等で使えるVOCAがほしい（昨年度の研修会で作ったが、個数を増やしたい）。	1回目に作ったじゃんけんルーレットの回転部分の強度を上げて、じゃんけんだけでなく用途を広げたい。	朝の会の天気発表のときに、音声と光で天気を知らせることができる教材・教具がほしい。
名称	じゃんけんルーレット	CD VOCA	ルーレット（改良版）	お天気ハカセ
写真				

研修内容については、はじめに穴開けの仕方を指導してもらい、その後グループに分かれて製作を行った。昨年度の研修で製作した CD VOCA を見本にしたり、適宜配線図のつなぎ方を指導していただいたりし、グループのメンバー同士協力してはんだ付けに取り組んだ。専門的な知識のある高山准教授に、分かりやすく指導していただいたことで、児童生徒が自発的に取り組みやすい教材・教具の開発ができたり、教師の製作意欲が高まったりした。

～教材・教具研修会の様子～



3 成果と課題

(1) 授業づくりについて

①教材・教具の工夫

【成果】

児童生徒一人一人の実態に合った教材・教具を工夫、改善したことで、豊かな表現や周囲に自分から関わろうとする力など様々な表出や反応を引き出すことができた。また、その表出を受け止め、フィードバックすることを積み重ねてきたことが、児童生徒の育ちや変容につながり、コミュニケーションの深まりへと結び付いていると考える。

<図1>は、授業づくりにおいて児童生徒にとって分かりやすい状況を作るための4つの観点について具体的に示したものである。これは、授業研究会やミニ授業研究会から導き出されたもので、授業づくりにおいて大切にしていきたいと考えるポイントである。この4つの観点を職員間で確認し合い、共通理解することで、それまでの自分自身の支援のあり方について振り返り、その後の授業づくりで観点を意識した取組が授業改善につながったと考えている。

【課題】

- ・児童生徒のコミュニケーションの深まりや育ちについて、全職員で共有し合う機会を設定する。
- ・教材・教具を共有し、よりよく活用するために事例集を作成する。

分かりやすい状況づくり

教材・教具

～意欲を喚起する状況づくり～

- ・ニーズに合った、興味・関心の高い教材・教具の工夫
- ・静と動の区別を分かりやすくするための音楽の効果的な使い方
- ・やりとりから、関わりへとつながる教材・教具の工夫
- ・香りや揺れ、視覚的支援等の気付きを促すような教材の工夫
- ・本人の好きな物・身近な物（安心感が生まれる）を利用し、無理なく活動できるような工夫
- ・児童生徒のわずかな動きに対して、表出効果の高い教材の工夫（音、振動、動きなど）
- ・将来の生活につながる教材の選択
- ・手の可動域に合わせた教材の工夫
- ・視覚的な工夫と聴覚的な工夫
- ・期待感を高め、動きを引き出すための提示の仕方、置き方
- ・見やすい大きさ、色、距離、速さ、高さへの配慮

姿勢づくり

～取り組みやすい状況づくり～

- ・リラックスできる姿勢づくり（クッション、セラピーマットや水袋など）
- ・自力歩行可能な児童生徒は、車いすなしの活動を設定
- ・児童生徒の見え方を意識した教師の立ち位置の工夫
- ・児童生徒の動きをより引き出すための教師の支援の工夫
- ・クッション類の準備等と活用で、バランスを崩した際の安全面への配慮

言葉掛け

～言葉が相手に伝わる状況づくり～

- ・児童生徒の反応を待つ言葉掛け
- ・共感的な言葉掛け
- ・擬音など、分かりやすく繰り返しが可能な言葉掛け
- ・児童生徒の動きに対する意味付けをした言葉掛け
- ・気持ちを代弁する言葉掛け
- ・主体性を高めるための言葉掛け
- ・活動への期待感を高め、表出につなげたり、引き出したような言葉掛け

授業展開

～見通しをもちやすい状況づくり～

- ・学習の流れを一定にし、見通しをもてるような繰り返しの活動の設定
- ・表出をじっくり待つ時間の確保と工夫
- ・児童生徒の体調に応じ、柔軟に対応できる展開
- ・教材選択場面の設定
- ・コミュニケーションを深めたり、引き出したため場面設定
- ・気づきを促し、自分のペースで活動を進めていけるような工夫
- ・活動を十分に楽しめるような学習活動の時間配分の工夫
- ・体位変換の難しい児童生徒が活動できる場面設定

コミュニケーションの深まり

図1 4つの観点到に沿った分かりやすい状況づくり

②授業デザインチェックリスト、授業実践チェックリスト、評価記録用紙の活用

【成果】

授業デザインチェックリスト、授業実践チェックリストの項目の見直しを行ったことで、評価がしやすくなり授業改善に生かすことができた。また、分教室独自の評価記録用紙の活用を継続したことで、授業の中で4つの観点を意識して授業をすることができた。また、観点を明確にして授業参観することにより、授業を見る力の向上にもつながった。

【課題】

- ・授業改善に生かすための評価記録用紙の有効な活用法を検討する。
- ・評価を次時以降につなげるために、評価後の授業改善について検証する機会を設定する。

(2) ケース検討会の実施について

【成果】

コミュニケーションを深めるための教材・教具や支援のあり方について具体的かつ多角的に検討することで、目標や教材・教具の選定などの方向性が明確となり、授業づくりを考える際に有効であった。また、児童生徒一人一人について年3回ケース検討会を実施することで、授業改善への意識が高まった。

【課題】

- ・他者評価を授業改善に生かすために、授業提示期間を年度の早めに設定する。
- ・各ケース検討会の実践状況を全職員で共有するために、記録の蓄積方法を検討し、また確認する機会を設ける。

(3) 自立活動学習会や教材・教具研修会の実施について

【成果】

定期的な学習会や研修報告会の実施により、職員間で新しい情報共有ができ、普段の授業に生かすことができた。

また、県立大学の協力を得て専門的な技術を学んだ教材・教具研修会では児童生徒の実態にあった教材を製作し、これまでにない気付きや反応を引き出すことができた。

【課題】

- ・専門的な知識を得るために、自立活動学習会の目的、内容の検討をする。
- ・個々のニーズに応じた教材・教具を製作できるように、研修会の目的をはっきりさせ、県立大学との連絡調整を密にして実施できるようにする。

4 まとめにかえて

今年度は、児童生徒のコミュニケーションの深まりを目指し、教材・教具の工夫、改善に焦点をあて研究を進めてきた。研究会、ケース検討会を通して、なぜその教材・教具が必要なのかを吟味し、取り組むことで児童生徒の心が動き、何らかの表出が見られ、一緒にいる教師とのやりとりが深まる姿が見られてきたと感じている。

今後も、引き続き児童生徒の発信を受け止め、思いに寄り添う丁寧な授業づくりを大切にする姿勢を忘れずに支援にあたっていきたい。また、一人一人のコミュニケーション面で目指す姿を確認し合い、より個に応じた教材・教具を選定、活用した授業づくりを心掛けていきたい。日々の教育活動を通して培われたコミュニケーションの深まりが、病棟での豊かな生活へ結び付くと信じ、全職員で全児童生徒について共通理解を図り、話し合いを深めより良い授業づくりを目指していきたい。

教材・教具一覧表

教材名・写真	ねらい	教材の特徴	児童生徒の様子
<p>ペープサート</p> 	<ul style="list-style-type: none"> うさぎの動きや洋服の変化に注目し、やってみたい気持ちを動作や発声で表す。 好きなシールを選び、教師に手渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の中に登場するうさぎをペープサートにして、目の前に提示することで、より興味が高まり、手を伸ばしたり、発声を引き出したることができる。また、自分で動かすこともできる。 	<ul style="list-style-type: none"> お話の途中でペープサートが出てくると笑顔になった。ペープサートの動きに注目し、やってみたい気持ちを手を伸ばしたり「ちょうだい」と発声したりすることで表すことができた。
<p>プラズマカー</p> 	<ul style="list-style-type: none"> プラズマカーに乗りたい気持ちを、3回発声で伝える。 後ろから教師に支えられながら、計5分間程度プラズマカーで体育座りの姿勢になることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 左右にハンドルを切るだけで前に進むことができる乗り物。大人と子どもが二人で乗ることができる。(合計100kgまで) 	<ul style="list-style-type: none"> プラズマカーが出てくると活動への期待感でたくさん発声していた。乗りたい気持ちは、普段よりも大きな声で、諦めずに3回発声して伝えることができた。
<p>タワッチ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> スイッチを操作し、タワッチを動かす。 タワッチからの音や振動を感じ、気持ちを表情や発声で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類のスイッチを接続でき、スイッチ操作によってタワッチの動きや、振動を楽しむことができる。また、たわしの部分に絵の具を付けて、模様を描くこともできる。 	<ul style="list-style-type: none"> スイッチのON、OFFを繰り返しながら、タワッチからの振動を楽しんでいた。タワッチを直接腕などに当てると、不思議そうな顔をしたり、笑顔を見せたりした。
<p>ハンドゴルフ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 指に力を入れてボールを握ったり、転がるボールを見たりする。 教師の「はい」や「ヤッター」の演示を見て、口や手を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 仰臥位からの姿勢変換が難しい生徒が、頭上の透明レーンのボールの動きを追視できる教材。手前のカップに入ると電飾が光り「ヤッター」の音声が入ると電飾が光り「ヤッター」の音声が出る。 	<ul style="list-style-type: none"> レーンの中程からカップに向けてボールが転がる様子を見ることが多かった。カップの電飾の光りや入ったボールに注目した。「ヤッター」の音声と教師の演示で、手を動かして喜びを表現した。

写真・教材名	ねらい	教材の特徴	児童生徒の様子
<p>ホカホカお風呂</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 水袋の揺れやアロマの香りを感じて口を動かして気持ちを表現する。 教師との触れ合いや、教材の感触を通して身体力を抜いたり視線を向けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 水を入れたポリ袋の上に電気毛布を敷き、さらにその上にシーツを被せた物。 程よい暖かさや揺れ、入浴剤のような香りでお風呂に入っているような感覚を味わうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目を大きく開いて電気毛布の暖かさや水袋の揺れを感じ取っている様子が見られた。また、香りを嗅いで、口をたくさん動かして快の気持ちを表現していた。時間が経つにつれて、身体の緊張がゆるみ、リラックスした表情になった。
<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末 wonder rhythm2 (タブレット用音楽アプリ) 	<ul style="list-style-type: none"> 手を動かしてタブレットをなぞり、楽器を鳴らそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 6種類の楽器を持った動物が登場し、それを指で触れたりなぞったりするとそれぞれが持っている楽器の音が出る。 10種類の童謡等が入っていて、その曲を流しながら楽器を鳴らすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲が流れることで、足踏みしたり、体を前後に揺さぶったりと、リズムにのっているような姿が見られた。 指を動かし、楽器を鳴らすことができた。
<p>ミニドーム</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 教材に興味をもち自分から手を伸ばして触ったり、動かしたりする。 教材に触れることや見ることを通して、感じた気持ちを表情や声で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 囲われているので、中に提示された物を、集中してよく見ることができる。 ブラックライトで提示物を照らしたり、スイッチで自分で電飾を光らせたりするなどいろいろな活用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 首を振らずに、ドームの中の雪だるまを見ていた。「雪を降らせてね。」と言葉掛けをしながらスイッチを出すと、自分で手を伸ばして押して、電飾の光る様子を見つめていた。
<p>温泉</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒にお湯に手足を入れる活動を通して、身体の緊張をゆるめることができる。 活動の中で感じた気持ちを、表情や動作で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> お湯の温かさと入浴剤の香りを感じることで教材・教具。 緊張の強い児童生徒でも、感触や温かさをゆったりと感じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 右手でお湯を触ると気持ちよさそうな表情が見られた。 自分で指を動かしてお湯の感触を確かめる様子が見られた。

〈資料2〉

第1回公開授業研究会 講演要旨（記録からの抜粋）

「子どもの表出行動を促す指導とは

～教材の活用と指導者の受け止め方」

山形大学准教授 大江啓賢^{ひろかた} 氏

【コミュニケーションの発達】

コミュニケーションの発達には①聞き手効果段階（原始反射）②意図伝達段階（指差し、身振り）③命題伝達段階（発声）の3つの段階がある。重度重複障害児の場合は、言葉を求めるのはとても難しいので、身振りや微細な動きを汲み取ることが重要になってくる。

コミュニケーションの本質には、相互作用と児童生徒の理解が必要である。相互作用については、初めは教師からの働き掛けに対して原始反射のところからスタートし、アクションをしてくれる。次に、そのアクションを教師が受け入れることによって次のアクションが子どもたちから返ってくる。この繰り返しによってコミュニケーションが成立する。

児童生徒の理解については、障害（疾患）の理解、家庭環境や友達関係の理解、治療・服薬の理解が重要になってくる。中でも薬に関しては、必ず副作用というものがあることを教師が理解しておかなければならない。薬によって授業中に眠気が生じる場合もあることを理解して対応するのと、そうでないのとでは教師の声の掛け方も違ってくる。子どもたちは、大人が思っている以上に敏感である。

【インリアルアプローチ】

子どもをよく知るためには、インリアルアプローチの4つの観点を意識する必要がある。S：子どもを静かに見守る、O：子どもの興味や遊びを観察する、U：子どもの気持ちや発達のレベルや問題を理解する、L：子どもが言おうとしていることに心から耳を傾ける。この4つの観点の中でも、Lが重症児には一番大事である。

【発達を迫る指導】

発達を迫る指導の中で、出来た出来ないの結果だけを求めると、評価としては分かりやすいが、その行動をしようとした気持ちの部分をどのように評価するのかが課題となってくる。例えば、手は伸びなかったけど、伸ばしたそうに見ていたという評価である。

また、失敗して覚えていくこともある。失敗しないように初めから手を差し伸べるのではなく、失敗した時にどうしたらうまくいくのか、改善の手助けをする。そして、親たちが普通に子どもへしているように賞賛することで、「もっとやりたい」「もっと言われたい」というように、励ましの中から子どもの意欲が生まれてくる。

「アウトプットが難しくても、インプットされているのであれば、その中身で勝負しなさい。それを繰り返すことが表出へと繋がる。授業とは、子ども一人一人が内側で構成する個性的で個別的な『意味の体験』を提供するものである。」（飯野順子 2009講演スライドより）

【「教材をつくる」と「子どもに教える」の関係】

作ることに目が向きすぎると、それで終わってしまう。教材を授業で使うのが目的であるからには、作るのはスタートでゴールではない。作れる教師ではなく、使いこなす教師へ。また、教材はその子が卒業しても使える教材でなければならない。そのためには、周囲にその良さも分かってもらわなければならない。

〈資料3〉

『評価記録用紙』 題材名「 」

【観点1】（児童生徒）本時のねらいはどの程度達成できたか。

【観点2】（教師）本時のねらい達成に向けた指導の手立ては有効だったか。

【観点3】（教師）個々のニーズにあった教材・教具であったか。

【観点1】	① 本時のねらい <input type="checkbox"/> ← 達成していたら○ 達成できなかったら／ その理由などを、自由に記入
	② 本時のねらい <input type="checkbox"/>
【観点2】	言葉掛け 児童生徒の実態に合った働きかけができていたかなど。
	姿勢づく 児童生徒が学習しやすい姿勢がとれていたか、児童生徒の配置は適切だったかなど。
	授業展開 活動内容は？時間配分は？など。
【観点3】	教材・教具 教材の妥当性は？提示の仕方は？学習環境は？など。
【改善に向けて】	

<その他、何でもエピソード>～授業前後の時間も含めて、お気付きのことをお書きください。